



2025年3月期 第2四半期(中間期)決算短信(日本基準)(非連結)

2024年11月14日

上場会社名 株式会社アルファポリス

上場取引所 東

コード番号 9467 URL <https://www.alphapolis.co.jp/company/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理本部本部長 (氏名) 大久保 明道

TEL 03-6277-0123

半期報告書提出予定日 2024年11月14日

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期(中間期)の業績(2024年4月1日～2024年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	6,348	24.1	1,546	32.5	1,551	32.5	961	32.5
2024年3月期中間期	5,113	16.5	1,167	4.4	1,171	4.3	726	5.2

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	99.29	
2024年3月期中間期	74.95	

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	%	%
2025年3月期中間期	15,149		12,650		83.5	
2024年3月期	13,946		11,689		83.8	

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 12,650百万円 2024年3月期 11,689百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期		0.00		0.00	0.00
2025年3月期(予想)				11.00	11.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

当社は、2025年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行う予定であるため、2025年3月期(予想)の1株当たり期末配当金については、当該株式分割の影響を考慮した金額を記載しております。なお、当該株式分割を考慮しない場合の2025年3月期(予想)の1株当たり期末配当金は33円00銭となります。詳細は、本日公表の「株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更並びに配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2025年3月期の業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,600	12.2	2,510	10.5	2,520	10.6	1,560	11.2	53.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、2025年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行う予定であるため、2025年3月期の業績予想(通期)における1株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を考慮した金額を記載しております。なお、当該株式分割を考慮しない場合の2025年3月期の業績予想(通期)における1株当たり当期純利益は161円04銭となります。

注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期中間期	9,687,400 株	2024年3月期	9,687,400 株
期末自己株式数	2025年3月期中間期	270 株	2024年3月期	270 株
期中平均株式数(中間期)	2025年3月期中間期	9,687,130 株	2024年3月期中間期	9,687,130 株

第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	7
(中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(重要な後発事象)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間(2024年4月1日から2024年9月30日まで)におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する中で緩やかな回復が続いているものの、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響等、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっており、また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響が懸念される等、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社が属する出版業界におきましては、2024年上半年(1月から6月まで)の紙と電子を合算した出版市場(推定販売金額)は、前年同期比でマイナスとなりました。公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所によると、2024年上半年の紙と電子を合算した推定販売金額は前年同期比1.5%減の7,902億円となり、その内訳は、紙の出版物については同5.0%減の5,205億円、電子出版については同6.1%増の2,697億円と、紙の市場が前年同期を下回った一方で、電子出版市場の堅調な拡大が続いております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いものが望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。

当中間会計期間における書籍のジャンル別の概況は以下の通りであります。

① ライトノベル

当中間会計期間の刊行点数は166点(前年同期比3点増)となりました。各書籍の売れ行きにつきましては、シリーズ累計200万部を突破した『とあるおっさんのVRMMO活動記』の続刊やWebコンテンツ大賞の受賞作から刊行した複数の新作タイトル等が好調に推移いたしました。また、2024年1月から6月にかけてTVアニメ第2期を放送した『月が導く異世界道中』の原作小説が、アニメ放送終了後も主に電子書籍販売において堅調な売れ行きを示し、当ジャンルの売上に貢献いたしました。

結果、当中間会計期間の売上高は前年同期を大幅に上回る着地となりました。

② 漫画

当中間会計期間の刊行点数は85点(前年同期比3点増)となりました。各書籍の売れ行きにつきましては、『素材採取家の異世界旅行記』『最後にひとだけお願いしてもよろしいでしょうか』等の大型人気シリーズの続刊が、引き続き好調に推移いたしました。また、当ジャンルと親和性の高い電子書籍販売については、新刊及び既刊の価格改定を実施したことや各電子ストアにおける拡販施策を強化したこと等により、全体的な売上の底上げを図ることができました。

結果、当中間会計期間の売上高は前年同期を大幅に上回る着地となりました。

③ 文庫

当中間会計期間の刊行点数は96点(前年同期比10点増)となりました。「キャラ文芸大賞」「ライト文芸大賞」等のWebコンテンツ大賞の受賞作を複数刊行し、引き続き取り扱いジャンルの拡大に注力いたしました。さらに、2012年に東映アニメーションによりアニメ映画化されたロングセラー小説『虹色ほたる』を児童文庫レーベル「アルファポリスきずな文庫」から児童文庫として刊行する等、厳しい紙書籍の市場環境の中で堅調に推移している児童書市場への参入を推進してまいりました。

結果、当中間会計期間の売上高は前年同期を上回る金額で着地いたしました。

④ その他

当中間会計期間の刊行点数は3点(前年同期比2点増)となりました。当社のWebサイトで人気のビジネス連載を書籍化した『80歳でもほどよく幸せな人はこういうふう考えている』を刊行する等、特定ジャンルに依存しない体制構築を目的として、引き続き幅広いジャンルの開拓、強化に取り組んでまいりました。

結果、当中間会計期間の売上高は前年同期を上回る金額で着地いたしました。

以上の活動の結果、当中間会計期間の売上高は6,348,693千円(前年同期比24.1%増)、営業利益は1,546,628千円(同32.5%増)、経常利益は1,551,323千円(同32.5%増)、中間純利益は961,820千円(同32.5%増)となり、売上、利益ともに中間会計期間としての過去最高を大幅に更新いたしました。また、当第2四半期会計期間における売上高及び各段階利益につきましても、四半期単位で過去最高を更新しております。

(注) シリーズ累計部数：同作品の続編に加え、同作品の漫画及び文庫を含み、部数は電子書籍販売数を含む。

(2) 当中間期の財政状態の概況

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べ1,037,440千円増加し、14,323,873千円となりました。これは主に、現金及び預金が増加(前事業年度末比710,159千円増)したこと並びに売掛金が増加(同258,754千円増)したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ165,713千円増加し、825,707千円となりました。これは主に、投資その他の資産が増加(同176,259千円増)したことによるものであります。

(負債)

当中間会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ247,917千円増加し、2,471,426千円となりました。これは主に、買掛金が減少(前事業年度末比36,000千円減)した一方で、未払法人税等が増加(同198,659千円増)したこと及び流動負債のその他が増加(同61,724千円増)したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ6,583千円減少し、27,316千円となりました。これは主に、長期借入金が減少(同4,998千円減)したことによるものであります。

(純資産)

当中間会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ961,820千円増加し、12,650,837千円となりました。これは全て、利益剰余金の増加によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における、現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末に比べ710,159千円増加し、10,417,498千円となりました。当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは902,153千円の収入(前年同期は487,803千円の収入)となりました。主な増加要因は、税引前中間純利益の計上によるものであります。また、主な減少要因は、売上債権の増加及び法人税等の支払によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは182,480千円の支出(前年同期は57,531千円の支出)となりました。主な減少要因は、出資金の払込によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは9,512千円の支出(前年同期は14,821千円の支出)となりました。主な減少要因は、長期借入金の返済によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績予想につきましては、2024年5月10日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当中間会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,707,339	10,417,498
売掛金	2,971,515	3,230,269
製品	332,277	320,887
仕掛品	235,240	303,863
その他	40,060	51,354
流動資産合計	13,286,432	14,323,873
固定資産		
有形固定資産	74,414	69,088
無形固定資産	22,169	16,949
投資その他の資産	563,410	739,670
固定資産合計	659,994	825,707
資産合計	13,946,426	15,149,581
負債の部		
流動負債		
買掛金	84,854	48,854
1年内返済予定の長期借入金	12,956	9,996
未払金	818,731	846,187
未払法人税等	421,213	619,873
賞与引当金	59,349	73,632
投稿インセンティブ引当金	25,626	30,212
返金負債	484,963	465,131
その他	315,814	377,538
流動負債合計	2,223,509	2,471,426
固定負債		
長期借入金	25,843	20,845
その他	8,057	6,471
固定負債合計	33,900	27,316
負債合計	2,257,409	2,498,743
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	9,972,005	10,933,826
自己株式	△637	△637
株主資本合計	11,689,017	12,650,837
純資産合計	11,689,017	12,650,837
負債純資産合計	13,946,426	15,149,581

(2) 中間損益計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	5,113,875	6,348,693
売上原価	1,295,259	1,564,455
売上総利益	3,818,616	4,784,237
販売費及び一般管理費	2,651,114	3,237,608
営業利益	1,167,501	1,546,628
営業外収益		
受取利息	37	697
前払式支払手段失効益	3,074	3,674
その他	488	470
営業外収益合計	3,600	4,842
営業外費用		
支払利息	88	147
営業外費用合計	88	147
経常利益	1,171,012	1,551,323
税引前中間純利益	1,171,012	1,551,323
法人税等	444,984	589,502
中間純利益	726,027	961,820

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	1,171,012	1,551,323
減価償却費	12,666	16,454
賞与引当金の増減額(△は減少)	13,145	14,282
投稿インセンティブ引当金の増減額(△は減少)	5,581	4,586
返金負債の増減額(△は減少)	△37,094	△19,831
受取利息及び受取配当金	△37	△697
支払利息	88	147
売上債権の増減額(△は増加)	△109,123	△258,754
棚卸資産の増減額(△は増加)	△63,167	△57,233
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,916	△36,000
未払金の増減額(△は減少)	56,945	28,233
その他	△2,299	55,845
小計	1,045,802	1,298,356
利息及び配当金の受取額	37	697
利息の支払額	△88	△147
法人税等の支払額	△557,948	△396,753
営業活動によるキャッシュ・フロー	487,803	902,153
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,672	△2,432
出資金の払込による支出	△19,190	△188,465
出資金の回収による収入	—	8,416
敷金及び保証金の差入による支出	△36,668	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△57,531	△182,480
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△14,162	△7,958
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△659	△1,554
財務活動によるキャッシュ・フロー	△14,821	△9,512
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	415,450	710,159
現金及び現金同等物の期首残高	8,771,740	9,707,339
現金及び現金同等物の中間期末残高	9,187,190	10,417,498

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

当社は、出版事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更)

当社は、2024年11月14日開催の取締役会において、株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更を行うことを決議いたしました。

(1) 株式分割の目的

株式分割を行い、当社株式の投資単位当たりの金額を引き下げることにより、投資家の皆様がより投資しやすい環境を整えることで、当社株式の流動性の向上と投資家層の拡大を図ることを目的としております。

(2) 株式分割の概要

① 分割の方法

2024年12月31日(火)(当日は株主名簿管理人の休業日につき、実質的には2024年12月30日(月))を基準日として、同日最終の株主名簿に記載又は記録された株主の所有する普通株式を、1株につき3株の割合をもって分割いたします。

② 分割により増加する株式数

株式分割前の発行済株式総数	9,687,400株
株式分割により増加する株式数	19,374,800株
株式分割後の発行済株式総数	29,062,200株
株式分割後の発行可能株式総数	96,000,000株

③ 分割の日程

基準日公告日	2024年12月13日(金)
基準日	2024年12月31日(火)
効力発生日	2025年1月1日(水)

④ 1株当たり情報に及ぼす影響

当該株式分割が前事業年度の期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報は、以下のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
1株当たり中間純利益	24円98銭	33円10銭

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(3) 株式分割に伴う定款の一部変更

① 定款変更の理由

今回の株式分割に伴い、会社法第184条第2項の規定に基づき、2025年1月1日(水)をもって、当社定款第6条の発行可能株式総数を変更いたします。

② 定款変更の内容

変更の内容は以下のとおりであります。

(下線は変更箇所を示しております。)

現行定款	変更後定款
(発行可能株式総数) 第6条 当社の発行可能株式総数は、 32,000,000株とする。	(発行可能株式総数) 第6条 当社の発行可能株式総数は、 96,000,000株とする。

③ 定款変更の日程

効力発生日 2025年1月1日(水)

(4) その他

今回の株式分割に際して、資本金の額の変更はありません。